



令和元年 9 月 27 日

学生や一般市民が企業と共創する「リビングラボ」を中国地方で初めて開催 災害時支援サービスの創出についてワークショップ形式で討議

10月15日、岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科及び研究推進機構は、岡山市北区駅前町の複合商業施設・ICOTNICOTにて、学生や一般市民が災害時支援サービスの創出について企業とワークショップ形式で討議し、考える「第1回岡山リビングラボ オープンイノベーションプログラム」を開催します。

企業等のサービス・商品創出に際し、企画段階からエンドユーザー（地域住民等）が参加する「リビングラボ」が開催されるのは中国地方では初となります。本活動を通じて、医療・福祉の現場など、社会のあり方や課題を見つめ、それに対して学術や科学の知見を活かし、多様な参加者と一緒に新たなものづくりや社会の仕組み作りを推進します。

<概要>

「リビングラボ」には「Living」（生活空間）の「Labo」（研究室）という意味があります。リビングラボは生活に関わるサービスや商品の開発プロセスに地域住民等のエンドユーザーを企画段階から巻き込み、実際に事業化を目指すことで、継続的に企業とエンドユーザーとの「共創」を図る取り組みです。リビングラボはヨーロッパを中心に世界中で開催されており、わが国でも先駆的な自治体や企業、大学等による取り組みが始まっています。

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科及び研究推進機構では、革新的なサービス・商品の創出支援を通じて、地域住民や企業従業員の方々の健康や生活全般に関わる課題を解決することを目的とし、本年10月から「岡山リビングラボ」を開始することにいたしました。

「岡山リビングラボ」が、地域住民、大学関係者（学生・研究者）、自治体、企業（大企業、地元企業、ベンチャー企業）等のさまざまな主体が集まってサービスや商品の事業アイデア・プランを検討するオープンイノベーションのプラットフォームとなり、異分野の組み合わせによるイノベーションの創出を図ります。

今回開催する「第1回岡山リビングラボ オープンイノベーションプログラム」は「岡山リビングラボ」の初めてのイベントになります。テーマを「災害時支援サービス」とし、要介護者や在宅療養患者、子ども、外国人等の社会的弱者にまで配慮された、災害時に望まれる医療・介護・生活支援等サービスについて、患者等への災害支援実績のある帝人(株)（東京都千代田区）とともにワークショップ形式で討議します。参加者が持つさまざまなアイデアやシーズを組み合わせることにより、災害時支援における課題解決の方策を全員で探求します。

岡山リビングラボのオープンイノベーションプログラムは今後、毎月1回のペースで開催する予定です。今後の計画は、大学院ヘルスシステム統合科学研究科のホームページ（<http://www.gisehs.okayama-u.ac.jp/>）等に掲載する予定です。



PRESS RELEASE

【開催概要】

1. 名 称 第1回岡山リビングラボ「オープンイノベーションプログラム」(O2IP)
2. 日 時 令和元年10月15日(火)13:30~17:00(開場13:00)
3. 場 所 ICOTNICOT 2階 Wonder Wall (岡山市北区駅前町1-8-18)
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。
4. 対 象 者 岡山大学関係者(教職員・学生)、自治体関係者、中国地域企業、
起業を考えている人、地域住民ほか
5. 定 員 約50名(応募者多数の場合、先着順となります)
6. 申 込 方 法 10月11日(金)17時までに以下URLよりお申し込みください。
<https://forms.gle/bH6qjkhFKvSQ18KLA>
7. 参 加 費 用 無料

【主催】

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科

【共催】

帝人株式会社(東京都千代田区)、おかやま・スタートアップ支援拠点運営委員会

【後援】

経済産業省中国経済産業局、一般社団法人中国経済連合会

<お問い合わせ>

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科
特任准教授 志水 武史
(電話番号) 086-251-8612
(FAX) 086-251-8612



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を支援しています。